

宇都隆参議院議員と永岩防大同窓会会長の対談
(8月8日(木)1300～於参議院議員会館)

永岩会長：私4月1日から防大同窓会会長を拝命していますが、御挨拶方々国政で御活躍の宇都議員に、最近の国政についての報告と防大に対する期待、同窓会に対する期待などをお話頂ければと思います。

宇都議員：ちょうど選挙に出た3年前は自民党が下野しており、民主党を中心としたリベラルな政策による国の舵取りが行われており、自民党は保守政党としての原点を振り返る苦しい時期を過ごしていました。安倍総裁を頂点として政権を取り戻すために総選挙に掲げたのが「日本を取り戻す」というキャッチフレーズでありました。ただ単に政権を自分たちの手に取り戻したいという話ではなくて、第1次安倍政権からのものであった戦後レジームからの脱却を目指すことであり、日本人として置き去りにしてきたものをもう一回構築しなおすのだということです。時代の流れと私が立候補したときの志がマッチングしてきたことに感慨深いものがあります。

永岩会長：国民の安全保障に対する意識の高まりが強くなって選挙結果に現れたのでしょうが、安全保障の観点からは、防衛計画の大綱であるとか、憲法の問題とか…いろいろ大きな課題がありますが。

宇都議員：集団的自衛権の問題であるとか。



永岩会長：そういった安全保障の課題にどういうスタンスで、どのように行動されているかとご紹介していただけませんか？

宇都議員：今、安倍政権の下で、集団的自衛権の4類型の解釈変更の議論をやっていきます。衆参のねじれを解消してこれだけの政権安定基盤を頂いたのですから、この3年間で憲法改正に繋がる足場となる各種法律や世論形成を行っていかねばならないと思います。この3つの柱（憲法改正、集団的自衛権の見直し、安全保障基本法の制定）が、今回自民党が与えられた主たる命題なのだと思う。ただ、3つとも困難さの度合いというか、ハードルの高さが違うので、一年目で出来るのはこれで、二年目はこう、三年目までに出来ることと、今度3年後の衆参のダブル選挙を終わった後でなければ、時間的に難しい問題と、はっきりと自分たちが認識して、計画的に実施していくことが必要なのではないかと思っています。

永岩会長：喫緊の課題が山積していますし、早く手当てをしないと間に合わないそれらの問題に対し、戦略的に主張していった貰えたら有難いなと思っています。で、その思いの中に防大の卒業生であるということで何か特別な思いというのがありますか？ 防大の卒業生として、政治活動のバックボーンとして生きているもの、あるいは政治活動をする上で防大の4年間の成果というものがこのように生きているといったような類のお話があればお願いしたい。

宇都議員：確かに有難い面がありますね。一つには現在自衛官出身の国会議員は4人になったのですが、奇しくも4人とも防大の出身者で、そういった意味で政界の中で同じ学び舎で勉強した先輩後輩の連帯というものが有るのが有難い。それともう一つは私の場合、自衛隊の現場で仕事をしたといっても、幕僚監部勤務経験はありませんでしたし、他省庁に出向して勤務することも無かったですから役所との繋がりというのが政治家としてどうしても希薄で、ウィークポイントなのですが、そこをカバーして頂いているのが先輩方や同期、あるいは先輩方や同期から紹介いただいた、いわゆるキャリアの方々、これは防衛省だけではなく各省庁の方々もですね。ほかの大学の人脈に決して引けを取らないものを頂いていると思っています。

永岩会長：現在防大同窓会の会員は2万4千人、そのうち自衛隊現役の会員が約1万人。その他1万数千名が自衛隊を退官したOBや外国からの留学生など。その2万4千人の組織はそれなりに大きいと思います。親睦も大事ですが、もっと大事な役割を果たさなくてはならないのではと私自身も考えております。一つの大きな柱は防大在校生、防大を支援するというのがあるのですが、まだもっと大きな役割はないのだろうかと思案しているわけです。



宇都議員：防大は世界にまれに見る、陸・海・空が集まって4年間学び舎で過ごし、勉強をするという教育機関としても素晴らしいところなので、その教育をより充実するためにOBとして何が出来るのかなと考え、(同窓会は)もっと力を発揮できるような気がします。

永岩会長：出発点である防衛大学校の4年間は陸・海・空の将来自衛官になる学生が共に生活しながら、各々の自衛隊に行ったならばいろんな作戦の考え方、装備・運用の仕方等諸々、防衛力整備も含めてあって、陸・海・空別々に仕事をしている類の聖域が無いわけではなくて、そもそも何故統合で作戦すべきなのか、統合での体制整備をすべきなのに何故うまくいかないのか、今こそもし、自衛隊が何らかの役割を果たさなければならないのであれば、必ずや統合でも

ってミッションすべきという事自体が、防大設立の原点に立ち返って議論すべきところに来たのだらうなというところをキャッチフレーズとして主張していかなければならないと思いますね。

宇都議員：そういうことは恐らく防大の教育改革などに反映されていくべきことなのだと思いますが、民主党政権で防大改革案というのが出てきた時、残念だったのは防大の同窓会のそれぞれの地域支部で知らされていない支部が多かったことです。

永岩会長：去年の半ばに防大出身の議員の先生方が、防大の改革に関して提言をされましたね。その際、防大の同窓生に対する意見の問い合わせが全く無かった。だから皆知らなかったわけです。防大改革は国家的にも非常に大きなテーマであると思います。同窓会としてもよくフォローしていく必要があると思っています。防大改革の検討については、同窓会には、自発的な事後報告ということで、当時、防大の事務方から説明があったのみです。地方のOBが知らなかったというのもむべなるかなです。

宇都議員：防大にこれから具体的に改革をお願いしたいのは、一つは学校長ですね。卒業生の中から学校長を出す時期に来ていると思います。学校長が学会の中で有名な先生である必要は無く、この学び舎で育ちここを巣立った先輩がいろんな意味で示唆を与えてくれるというのがすごく重要な気がします。



永岩会長：その点については、防大の同窓生の中に非常に熱き思いを持っておられる方々がおられることも事実です。一方、防大の卒業生の中にはまた別の意見の方々も居て、防大自体の存在として、諸外国の士官学校とは違う位置づけの大学としての存在・価値もあるということで、軍人を育てるという前にジェネラリストを育てるという意見を言われる人も居る。現在の國分学校長は去年学校長になられたばかりです。同窓会事務局としては、将来、時来たり、特定の方で学校長に推挙するに足る同窓生が出てきたら、それなりの対応をしたいと考えています。

宇都議員：防大の学校長とお話をされる機会というのは会長はあるのですよね。

永岩会長：来週にもこのような対談をしようと思っています。

宇都議員：其の時に学校長とお二人で話し合っ頂きたいのが、防大に法科は要らないの
だろうかということです。これからは国際法の絡みであるとか、有事法制の交
戦規定の絡みであるとか、今この瞬間に各種行動が是となるのか非となるのか
をジャッジメントする人が居ないですよ、われわれの組織には。法務幹部と
いう職種がありますがどちらかという部隊や個人が訴訟を起こされたときに
それをサポートするのが目的で、先の話になるかもしれないですけど、いつか
は防大で防衛法制のプロを養成していく必要があるのではないのでしょうか。

永岩会長：最近、中国に出張して人民解放軍幹部と意見交換してきましたが、その際の話
題で、中国海軍の艦艇にも国際法専門家を乗せているという話を聞きました。
防衛省で法律専門家という今御指摘のとおり、必要な法務幹部を他の大学等
で勉強させて資格を取るという状況です。防大に法務学科をとという御指摘は非
常にいいポイントではないかなと思います。

宇都議員：そういった意味では、国公立大学には防衛省の方から働きかけて安全保障の講
座を作ってくださいというべきですね。

永岩会長：それは政治の方をお願いするとして、私も最近はいろんなところで安全保障の
講話をするのですが、各大学でもようやく安全保障の課程を実施する時代にな
ってきたと感じています。出来るだけ政治の力も含めてそういった活動を活性
化していけたらと思います。

宇都議員：憲法9条改正において、国軍化などの議論のときに必ず軍事法廷の必要性が出
てくると思いますが、其の時にそこで働く法律家が軍事は素人ですというので
は多分ジャッジメント出来ないですからね。

永岩会長：最初にありました、防大同窓会に対する期待を伺えますか？

宇都議員：同窓会に期待することといえば、一つは隊友会とかその他の自衛隊関係の組織
とは違って、それなりの安全保障の教育を受け、自衛隊の中でも幹部として育
ってきた、ある程度防衛素養の高い皆さんの集まりですから、一つやって頂き
たいのは政治のバックアップ、つまり安全保障政策を前に進めるためのバック
アップという意味です。各地で国民啓発の為のいろんな安全保障の勉強会であ
ったりという場所に、講師として積極的に参加して意見開示をして欲しいので
す。自衛官だけではなくて、一般の方、出来れば女性の皆さんを呼んで話をす
るという機会を作っていかななくては。そうしたときに、交通費だけ出してくれ
れば何時でも行きますよというような講師陣を同窓会の中でプールしておい
て、例えば今度ちょっと広島あたりでだれだれが企画してこれくらいの規模で
やるらしいぞ、それでは私が行って来ますとかいう知的シンクタンクの一翼で
も担って頂ければなあと思っています。

永岩会長：それには全く同感です。特に大震災以降自衛隊に対する見方も大分変わってきましたから、自衛隊に対する期待が国民の側から沸きあがってきています。防大OBは災害派遣や安全保障に係る優れた見識と経験を有しています。そのような人達が地方も含め、実は、気が付いたらいるんなところに埋没している。もったいない話です。防大同窓会の知的財産を体系的にリスト化し、皆さんの活用に資するよう準備していきたいと思います。

宇都議員：それぞれ陸・海・空で職種も含めて自分はこういう専門分野に関してはいつでも使ってくださいというようなのを、名簿化できないでしょうか。人数を揃える必要は無いのです、例えば10人でも20人でも良い、そういうのが出来れば、政治家の世界でも防衛政策に関心の高い新人の先生方にお配りして、何時でもここに連絡してください、皆さんいつでも協力してくれると言っている防大出身のシンクタンクですから、ということで出張・出前でその先生のところにすぐに行って、「あっその件ですか。装備体系についてはこうなっています。資料もお持ちしましょう」あるいは「役所であれば、どこどこにはこういった奴が居ますから、細かいことはあいつに聞いてください」とか、今は自衛隊出身の佐藤先生と私だけが活用させていただいているネットワークをもう少し広く利用して頂ければ国家にとっても大きなプラスですよ。



永岩会長：卒業生が出した書籍なり、論文の類は同窓生のホームページに掲載されているのですが、残念ながらあまりアクセスが無い状況です。安全保障のプロパーとしての防大OBの知的財産をもっともっと活用いただけるよう、何らかの工夫をしたいと思っています。

宇都議員：それも是非宜しくお願いします。

永岩会長：引き続き国政のために頑張ってください。本日はありがとうございました。

宇都議員：ありがとうございました。現場で汗をかく現役の自衛官が、力を十分に発揮して国防に邁進できる政治的環境を作るために、これからも死力を尽くしてまいります。